

タイトル	学部	授業名 (主たる教科領域)	執筆者
呼名係に挑戦しよう！ ～誇れる自分を目指して～	小	朝の会 (自立活動)	山崎安希子

1. Aさんの実態

・ (1) Aさんは、不安感がとても強い。したい気持ちを持っていたりも、“失敗したらどうしよう” “友達みたいに上手にできるかな” と心の中での葛藤が見られる。まずは信頼できる大人と、繰り返し取り組む中で自信を高めたり、無理強いせずに本人から参加できるように順番を工夫したり、その場で課題を変えたりして安心して取り組めることを大事にしていく中で、少しずつ色々なことに挑戦できるようになってきた。しかし授業場面では緊張が強くなり、尻込みすることが多々見られる半面、休み時間などの緊張がほぐれている場面では、できなかったことを後から自分で言い、教師に“みて！”とアピールする姿があった。“したい”という気持ちをどう支援していくか。

(2) 自立活動のねらい、選定項目内容

“学校生活の中で好きな活動や遊びを見つけ、気持ちを向けて取り組む。” ※他2つは省略
心理的な安定 (2-1) 情緒の安定に関すること

(2-2) 状況の理解と変化への対応に関すること

(2-3) 障害による学習上又生活上の困難を改善克服する意欲に関すること

人間関係の形成 (3-1) 他者とのかかわりの基礎に関すること

環境の把握 (4-2) 感覚や認知特性についての理解と対応に関すること

2. 朝の会での実践

3 学期より、朝の会で“友達や教師の名前を呼ぶ”という係の役割を取り入れた。今まで大人が進行を進めていたが、今後は子どもが主体の朝の会へと少しずつ移行していくことをねらいとしている。Aさんも、友達がしている様子を見ていて、「したい人いる？」と聞かれると期待感を持ちながら手をあげるが、教師に指されると、すぐに「しない。」「〇〇ちゃんがして。」と表情がこわばっていた。学期の後半になっても、自分から前に出ることは難しく、教師と一緒にしたり、前には出ずにその場で取り組んだりした。本人は、前に出られない自分と葛藤しながらも、“自分で前に出たい”という願いも持っているのでは？と思い、支援を見直した。

呼名係順番表を作成し、教師と呼名係をする順番をやりとりしながら確認するようにした。

字はまだ難しい為、写真カードを使用し、カレンダー学習でやりとりしてきた経験を踏まえて、赤い枠を左から右の流れに移動させて順番を伝えた。「今日は誰かな？」「あしたはAちゃんやね！ちょっとドキドキする？」など期待感を高めたり気持ちを共有したりしてやりとりを行うようにした。使っていく中で、Aさんの方から、「今日はA！」などアピールする姿が見られるようになり、“友達もしているから私もする！”という意識も芽生えていき、前に出て呼名係を行えるようになった。呼名係を終えたAさんはやりきった達成感と、終わったという安堵感が入り交じった表情をしていた。教師も名前を呼ばれた時は「はい！！」と元気に挨拶をし緊張がほぐれるよう、楽しい雰囲気作りも大切にした。



「私もできるやん！」と自分のことを誇らしく思えるようになることが増えていく中で、もっと色々なことにも取り組んでいけるようになるのではと考えている。

Aさん、
よく頑張りました！！

